

「九条の会さかど」ニュース 14年12月25日 第56号

http://www.9jo.jp/sakado sakado@9jo.jp 連絡先 283-4723 (FAX 兼用) 栗原

投票日に語り継ぐ！

12月の「戦争を語り継ぐ会 子や孫の時代へ」は、突然の衆院選の投票日に重なってしまったせいか17名の参加でしたが、須貝節子さんがお話しした仙台空襲の体験とその後の教師生活での歩みは、語り続けること、語り継ぐことの大切さを、あらためて実感させてくれるものでした。



映像証言『変わりゆく千代田 開拓編』は、今から30年前に坂戸市観光協会が作ったビデオ作品で、戦後の開拓時との移り変わりを、写真でもって比較していました。

坂戸駅からのスタートで、古い駅舎とひとつ前の駅舎。交番ができたり、ロータリーができたりと、何だか懐かしい雰囲気でした。

次は、本日の会場である坂戸駅前集会施設の四辻で、馬車道だったため、今より道が広い感じがしました。舗装もされていなくて、ホントにこの場所か？と思わせるものでした。

その後、市役所と公民館の間の道を、市役所側からと山村国際側から写した映像。坂中・山村国際・師範学校(筑坂)の正門の今昔。開拓団が植えた1万本もの桜が、2014年現在も春になるとそれぞれの学校で咲き誇っているというのはすごいお話です。

それから、元坂戸自動車教習所近くの池(?)の周りから若葉駅にかけての映像。池なんてあったかなと思いますが、もしかして貯水池みたいなのがあったのがその名残りかな？と思いました

現ワカバウォークのところとか、移転した教習所とか、30年前との違いも見られて、昔から住んでいる方の声とかも聞こえて、不思議な時間でした。

戦争を語り継ぐ会の感想から

- ◆ 仙台空襲で教会が火災となり関係者が火だるまになって死んでいったというむごいお話もあった。今日は投票日戦争反対の議員が多数当選することを心から願っている。(井原 求)
- ◆ 体験談は生々しく、心うたれる内容であった。(中山博昭)
- ◆ 九条は事実上病院のベッドで半死半生の状況、多くの市民の力が必要です。今日の衆院選の結果によっては日を置かず改憲の動きが起きるはず。気を引き締めて今度は受け身ではなく先手攻めの姿勢を考えていくことが必要ではないか。(川瀬)
- ◆ 戦争の体験を語り継ぐことは、これからも歴史の事実として伝えるべきだと思います。私は中国で終戦を迎えました。これからも事実を広めていきたいと思えます。坂戸の歴史のフィルムを大事にしたいと思えます。子供たちにもわかるよう編集できると良いですね。
- ◆ 語りでは、実体験に基づく内容と合わせて『きけわだつみの声』からの紹介もあり、語りをこえて論理のあるもので良かった。須貝さんは北坂戸で憲法を学ぶ会などをやっておられるようなので、これからも連帯してより豊かな九条の会さかどにしたいものです。
スライドでは、戦跡めぐりで知っていた防風林のことや桜の木のことを映像でも確認できて良かった。(新井竹子)
- ◆ お話の中で、戦闘機が幾つも飛んで行った印象が残っているとありました。「仙台の空襲にあった方からしたら小さなことですが」ともありました。
結婚したことで新しくできた祖母の家は農家でした。夫を亡くしたため母子家庭でしたが、供出の時に男手が無いことから、他家より負担が重かったと聞いたことが心に残っています。戦争中の悲惨な体験に比べたら小さな話かもしれませんが、祖母から直接聞いたことで私の心には残っています。

九条の会さかど 早春のつどい

日 時 2月8日(日)13時から16時
会 場 坂戸駅前集会施設(2階)
参加費 1500円(食事・飲み物)

一緒に食べて、一緒に飲んで、みんなであたって！

9条のこと、平和のこと、伝えたいこと、やりたいこと、一人ひとりの思いに耳を傾けましょう。食事と飲み物の用意をしますので、ご参加を2月5日(木)までにご連絡ください(049-283-4723 栗原)

紹介「戦後史の正体」(孫崎 享著)

元町 新井竹子

この本の表紙には、次のように記されている。赤字で大きく「えっ、これは驚いた!」。これに続いて普通の黒い文字で「元外務省・国際情報局長が最大のタブー『米国からの圧力』を軸に、戦後70年を読み解く!」。

裏表紙には、次のように記されている。「いま、あなたが手に取ってくださったこの本は、かなり変わった本かもしれません。というも本書は、これまでほとんど語られることのなかった『米国からの圧力』を軸に、日本の戦後史を読み解いたものだからです。こういう視点から書かれた本は、いままでありませんでしたし、おそらくこれからもないでしょう。『米国の意向』について論じることは、日本の言論界ではタブーだからです」(著者)

そしてこの本のすごいところは、高校生に向けていることです。かつて、井上ひさしが言っていた、“むずかしいことをやさしく”書きたいものと。そう、この本の精神は正にそれである。高校生にでも読めるという視点ならば、より多くの人に読めるはず。私もさっそく読み始めた。読める・読める。面白く読めるし、“えっ、こんなことが”ということが、ぐんぐん出て来て、赤ペンで線を引くことのなんと多いこと。

“米国の方針に逆らえば追放される、逆にすり寄せれば大きな経済的利益を手にすることができる”自民党のほとんどの政治家達は、対米追従で利益を得ていたのだ。真に国民のためにと政治を行なうことがいかに困難であるかとわかる。近年では小泉純一郎総理が、とことんアメリカ追従の人であった。

この本では歴代総理大臣を、自主派か対米追従派かで分けしている。そこでは意外な総理が自主派の方に入っている。田中角栄は追従派でなくて中国との国交を回復できたという。

どんなことであれアメリカの言うことに従わなければ、日本の総理はひどいことになるという。佐藤栄作総理とニクソンとは、ひどい関係になっていて、ニクソンの報復は続いた。尖閣諸島についてもアメリカの態度があつたらしい。このことに関して次のような記述がある。

「ニクソンの訪中のあと、尖閣諸島について国務省は日本の主張に対する支持を修正し、あいまいな態度をとるようになった。佐藤の推測によれば、ニクソンと毛沢東のあいだでなにかが話しあわれたことを示すものだった」

意外や、岸信介は自主派に入っている。それは、従属色の強い旧安保条約を改定したからと。

TPPについても書いてある。「TPPは米国が、日本の国内にある富を、扉をこじあけ、吸い上げるための仕組みです。TPP推進派の人びとは、TPPの実態を説明していません。詭弁を使っています。」

最後に孫崎氏は書いている。

「米国と対峙していくことはきびしいことだ。しかし、それでもわれわれは毅然として生きていこう。ときに不幸な目にあうかもしれない。でもそれをみんなで乗り越えていこう」

この方が一般の多くの方々、高校生の多くに読まれること私は望みます。

今後の運営委員会(会員なら誰でも参加できます)

1月22日(木)10時~12時、2月26日(木)10時~12時

北坂戸出張所内「坂戸市市民活動交流フロア」会議室
(溝端公園に面した「埼玉りそな銀行の看板」が目印)

小さなことでも、伝えてもらわなければ知ることができません。そういう辛さもあるんだということからも、戦争は嫌だという気持ちになります。

今30歳の私ですが、小学校・中学校・高校と、先生方も戦争のことをしっかり教えてくれました。戦争は駄目だと。

なので、ぜひそういった話を、自分のお子さんやお孫さんに話してほしいです。お正月も近いことですし。

戦跡めぐりへの要望

- ◆ 坂戸市や教育委員会に戦跡の説明版を立てるよう要請することが大切。そのためにも、戦跡ひとつひとつのもつ意義をアピールできるように学び、記録することを実行できないでしょうか。
- ◆ 貴重な財産を残してくれている個人に感謝。生き証言が聞きたいと思います。
- ◆ 坂戸の歴史も、もっと知りたい。
- ◆ 今回4回目ということですが、今日初めての参加でしたので、1回~3回の資料等をいただければうれしいのですが、よろしく願います。
- ◆ 戦跡マップがあると後で調べるときに大変参考になります。ご検討いただければありがたいです。
- ◆ 城跡も見たいです。23分のビデオも見たいです。
- ◆ 知らないことばかりです。坂戸のことを知りたい。

『大空襲の5日後に』、大賞に

東坂戸 井出裕子

11月30日、神奈川県立青少年センターで、紙芝居文化推進協議会主催「第15回手作り紙芝居コンクール」の本審査が行なわれました。一般の部では応募総数115作品の中から優秀賞(大賞候補)の7作品が実演され、私が応募した『大空襲の5日後に』が「加太こうじ賞(大賞)」に選ばれました。紙芝居仲間の「あじさいの会」のみんなも一緒に喜んでくれました。

九条の会さかどの「戦争を語り継ぐ会」で溝端町の猪瀬秀雄さんがお話した『大空襲の5日後に』を岩渕さんが「発見!市民活動フェア」でのアピール用にまとめ更に紙芝居用の脚本にしたものを送ってくれたのは1年前のことでした。

改憲の動き、忍び寄る戦争の足音を止める紙芝居を作るのは今でしょ!と背中を押されました。

戦中の工場の日常、食糧難、空襲、防空壕、焼夷弾の不発弾。そこまでは資料がありましたが、猪瀬さんが見たままの焼け跡や数々の遺体はどう描いたらいいか…、とても残酷な絵になります。血の色は描きたくないと思い、遺体が出てくる場面は墨で描きました。

そして、最後の場面、「憲法9条にはこう書かれています。『日本は永久に戦争をしない、軍隊を持たない』。戦争を経験しているだけに、これが人間の生きる道だと思いました」というメッセージが審査員の先生方に評価されました。

受賞を励みに、これからも、平和を願う作品、自然を守る作品を作り続けたいと思います。

